

電子音楽の現在 三 Present from Electro Acoustic Music 3 Concert

clumistica 13th concert clumistica friendship diary 17

光
の
隧
道
The Tunnel of Light

花
如
quasi flos

鏡
の
む
ら
う
に
Through the Looking-Glass

明
月
楽
式
之
巻
Bright Moon Music V

自
然
—
凜
—
自
然
Naturell-Courage-Naturell

沈
黙
の
月
Silenziosa luna

玉
Bach

真
聲
花
如
VOX verum quasi flos

Requiem
8ch version

Carlo FORLIVESI カルロ・フォルリヴェジ

中村典子 NAKAMURA Noriko

featuring アキム・ボルンヘフト Achim BORNHOEFT with 箏・十七絃箏 麻植美弥子・ファゴット 中川日出鷹

[入場無料]

2015 3.28 [Sat.] 14:00 [open 13:30] 京都市立芸術大学大学会館ホール KCUA University Hall アフターレクチャー15:30-



[作曲専攻対象]

電子音楽の現在3



Present from electro acoustic music

カルロ・フォルリヴェジ Carlo Forlivesi [イタリア国立ロディ音楽院教授]

イタリアの作曲家、演奏家、研究者。ポーロニャ出身。ポーロニャ国立音楽院を経てミラノ・G・ヴェルディ音楽院を首席で卒業、修士号を取得。ローマ・アカデミア・聖チェチリアで博士号を取得。フランスのIRCAM(ボンビドゥーセンター、音響音楽研究所)ブーレーズ、ドゥティエ、ファーニホウ、グリゼイ、ハーヴェイ、リゲティ、マヌリ、ムライ、リセ、ストロツパ、クセナキス、リゲティ、ジョルディ・サバル等に師事。デンマーク政府特別研究員としてDIEM(デンマーク電子音響音楽研究所)でコンピューター音楽の研究を深めた後、日本政府文部科学省政府給費生として、東京音楽大学大学院で湯浅譲二に師事。またアイヌ音楽の研究に取り組み、論文を発表。2005年アメリカフルブライトコミッション研究員としてノースウェスタン大学でオーガスタ・リード・トーマスに師事し研究。多数の受賞のほか、日本伝統音楽と舞踊、アイヌ音楽分野で研究を重ねる。作品は世界各地の音楽祭、劇場で定期的上演されている。オーケストラ、合唱、室内楽、舞踊音楽、電子音楽、日本伝統楽器のために作品が書かれている。東京藝術大学、パリ国立音楽院、ソルボンヌ大学、アデレード大学、メルボルン大学、京都精華大学、大阪音楽大学、京都市立芸術大学で講演。本学大学会館ホールで電子音楽「レクイエム」が2012年5月23日に演奏されている。キャリア音楽院、アドリア音楽院、モデナ音楽院を経て現在、イタリア国立ロディ音楽院教授。IRCAM,DIEMで制作し、世界各地で上演され、本学大学会館ホールでも日本でCD発売の電子音楽8ch再生による「レクイエム」が上演のカルロ・フォルリヴェジによるelectro acoustic music電子音楽の現在についてのWorkshopの第3回。2011年3月11日に起きた東日本大震災を起点に、electronicsについて、人間について、表現について再考する機会とします。

[担当:京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻中村研究室 phone:075-334-2363]

2015年 **3月29日** (日) 10:00-16:30 京都市立芸術大学会館CM室 KCUA University Hall, Computer Music lab. 協力:イタリア文化会館大阪